

第 2 編

基 本 構 想

第 1 章 まちづくりの将来像と基本理念

第 2 章 まちづくりの目標

第1章 まちづくりの将来像と基本理念

本町は、瀬戸大橋の開通とともに本州と四国を結ぶ四国の玄関口として、著しい人口増加を遂げ、都市機能を集積し発展してきました。そして、平成の大合併においても単独での自立を選択しこれまでの発展を維持してきました。しかし、本町周辺に大型店舗の立地等が進み、本町の交通及び商業立地条件の優位性が低下する他、地方分権*の動きや地域間競争がさらに強まるなど、今後のまちづくりを進めていくうえで大きな転換期を迎えています。

また、本町を取り巻く情勢は、全国的な傾向と同様に、少子高齢化の進展やそれに伴う厳しい行財政運営、市街地の空洞化、さらには、多発する自然災害など刻々と変化、複雑化しています。一方で、住民ニーズのさらなる多様化・高度化が進み、今まで以上に安全性や快適性など、生活環境の質的向上が求められています。

こうした中、本町が今後とも「小さくても自立可能なまち」としてさらに発展し、住民一人ひとりが生涯健康で、安全・安心していきいきと暮らしていけるまち、個性と活力があふれるまちを実現していくためには、住民と行政の連携による協働*のまちづくり、住民自治の地域づくりが不可欠です。

そのため、住民一人ひとりが「自らの地域は自らでつくる」といった住民参画に対する意識改革を図り、各個人、各地域、そして地域全体が自立することを今後のまちづくりの方向性として、
『元氣創造！ これからも 自立する 宇多津』を将来像に掲げ、これからも、そしていつまでも自立していける元氣なまちの創造を目指します。

*印の語句：資料編に用語解説あり

【まちづくりの将来像】

『 元気創造！これからも 自立する 宇多津 』

各個人、各地域、そして地域全体の自立により、住民一人ひとりが生涯健康で、安全・安心していきいきと暮らしていけるまち、さらに、個性と活力があふれるまちとして、これからも、そしていつまでも自立していける元気なまちを創造していきます。

【基本理念】

住民の自立と参画による繋がり豊かな地域コミュニティのあるまち

まちづくりの主役はそこに住む人であり、住民の自立と参画が不可欠です。「自らの地域は自らでつくる」といった住民の意識改革を図り、世代間や地域間を越えた繋がり豊かなコミュニティのあるまち、住民参画のまちづくりを進めます。また、住民と行政が協働*で地域の課題を解決し、効率性の高い、自立したまちづくりを進めます。

住民一人ひとりが生涯健康でいきいきと活躍できるまち

本格的な高齢化社会の到来に対して、住民一人ひとりが健康で、いきいきと暮らせ、活躍できるまちづくりが求められています。そのため、体と心の健康づくり、健やかで生きがいの持てる環境づくりを進めるとともに、住民同士が互いに助け合い、やさしさあふれるまちづくりを進めます。

町全体と各地域の特性を活かした個性と活力のあふれるまち

地方の時代といわれる中、宇多津らしさを活かした個性的なまちづくりが求められています。そのため、四国の玄関口といった町全体の特性とともに、都市機能が集積する新宇多津都市、歴史・文化資源に恵まれた既成市街地、良好な田園景観を有する南部地域など各地域の特性を活かした個性と活力のあふれるまちづくりを進めます。

だれもが安心して暮らせ、明日を担う人材が育つまち

だれもが安全で安心して暮らせる環境、また、安心して子育てができ、子どもたちが健全に育つ環境が求められています。そのため、災害や犯罪への対応、すべての人にやさしいユニバーサルデザイン*の視点から生活環境の充実を図るとともに、地域の明日を担う人材が育つまちづくりを進めます。

第2章 まちづくりの目標

1. まちづくりの基本指標

(1) 将来人口の見通し

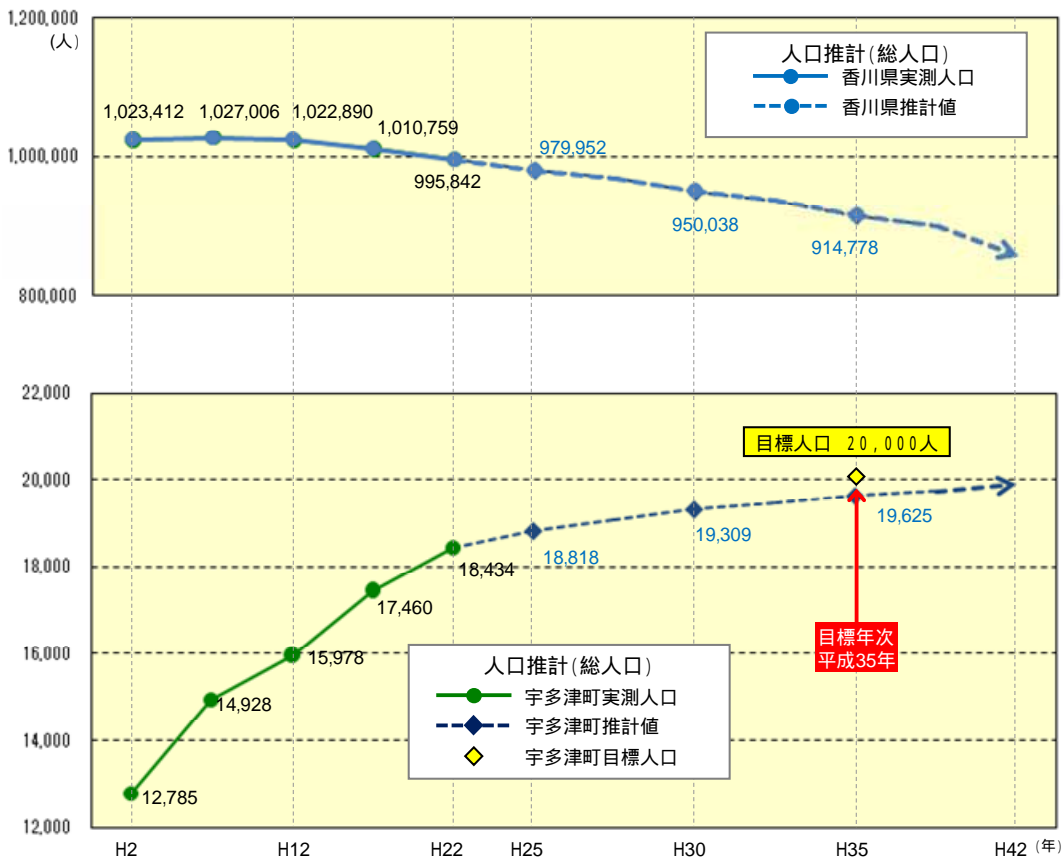
本町の人口は、これまで新宇多津都市開発に伴い急速な増加を示してきましたが、増加率の低下と高齢化の進行がうかがえます。

また、全国的な人口減少が加速する中で、近隣の自治体を含め香川県全体の人口も減少傾向が予測されています。本町においても新宇多津都市における商業集積状況の停滞や、既成市街地における人口減少や高齢化の進行など、地域の活力を持続していくうえでの課題もみられます。

こうした全国的な少子高齢化の傾向の中で、本町が今後のまちづくりの将来像として掲げる『元気創造！ これからも 自立する 宇多津』の実現に向けた取り組みを総括的に評価する基本指標として、推計される将来人口の維持・増加させることを目標として、目標年度である平成35年の人口20,000人を目指します。

この基本指標の実現に向けては、まちづくりの基本目標とする6つの分野における各種施策の取り組みによって、住民一人ひとりが生涯健康で、安全・安心していきいきと暮らしていけるまち、さらに、個性と活力があふれるまちとして、これからも、そしていつまでも自立していける元気なまちを創造していきます。

人口の見通しと目標人口



(2) 土地利用構想

土地は限られた資源であり、住民生活や生産活動における基盤となるものです。

本町は、狭い町域ながら、海、河川、山、田園、都市といった多様な特性を持ち合わせた地域であり、長期的、計画的に、この限られた土地の有効利用を図っていきます。

ゾーン別土地利用方針

都市機能集積ゾーン

都市機能の集積と高度化、利便性の高い居住環境の創造、文教福祉施設等の充実による豊かな生活環境の創造、さらに、町外からの転住を促進する住環境の創造を図ります。

特に、JR宇多津駅周辺は「中枢拠点」として位置づけ、まちの顔づくりを推進します。

伝統町並みゾーン

歴史的な町並みを活かした既成市街地の環境保全、空家対策の推進、歩いて暮らせる生活環境の創造を図ります。

また、町役場、産直市うたづ、網の浦郵便局周辺を、当ゾーンの「地域拠点」として位置づけます。

定住促進ゾーン

良質な生活空間の確保に向け、既存の住環境を踏まえながら、周辺の自然資源などを活かし、良好な定住環境の創造を目指します。

田園定住ゾーン

良好な農地や農村景観の保全、田園環境と調和した住環境の形成を図ります。

また、国道11号周辺については、沿道型商業地の形成を推進する「沿道商業拠点」として位置づけます。さらに、市街地に近い農用地や利用可能性の低い農用地については、若者定住に向けた住宅開発を含め、計画的な土地利用の誘導を図ります。

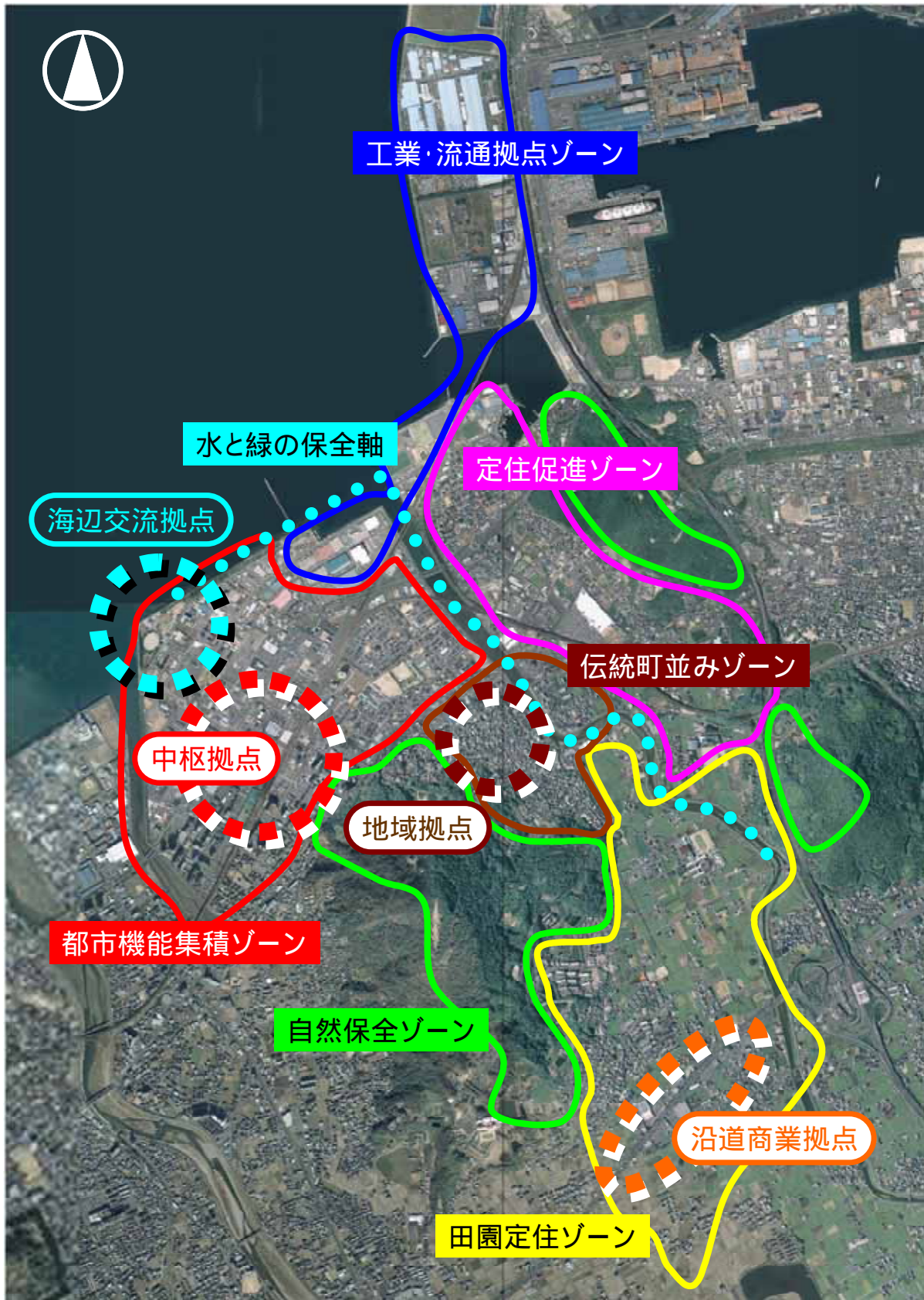
工業・流通拠点ゾーン

既存の工業、流通機能の充実、周辺環境と調和した産業振興を図ります。

自然保全ゾーン

青の山や大東川などは、水と緑の自然空間軸として、良好な自然環境の保全・活用を図ります。

臨海公園周辺を、水と緑のネットワークや交流の拠点となる「海辺交流拠点」として位置づけます。



土地利用ゾーニング図

2. まちづくりの基本目標

将来像で掲げた『元氣創造！ これからも 自立する 宇多津』の実現に向けて、まちづくりの基本目標を以下のように整理します。

【基本目標】 少子・高齢化に対応した健康・福祉のまち（健康・福祉）

「保健」「医療」「福祉」を総合的にとらえ、住民一人ひとりの自立した健康づくりの支援に取り組みます。

また、高齢者や障害者が生きがいや目標を持って暮らせる環境づくりや、保護者などが安心して子育てができる環境づくり、ノーマライゼーション*の理念を基にした地域での助け合いを強め、「少子・高齢化に対応した健康・福祉のまち」づくりを目指します。

【基本目標】 だれもが快適に安心して暮らせる生活基盤の整ったまち（生活基盤）

本町の立地条件や広域交通条件の良さや、自然、歴史・文化を有するまちの特性を活かしながら、良質な生活基盤の充実を進め、適切な開発誘導などを通じ、良好な市街地形成を図ります。

また、住みよさを重視した環境づくりに向けて、災害に強い生活基盤の安全性の確保、利便性、快適性、さらに魅力の向上を進め、「だれもが快適に安心して暮らせる生活基盤の整ったまち」づくりを目指します。

【基本目標】 豊かな自然の中で安全・安心に暮らせるまち（防災・環境）

東日本大震災の教訓、南海トラフ*の巨大地震に対する備えなどに注視しながら、地域に密着した防災・減災・防犯体制の充実に取り組みます。

また、限りある資源の有効利用や環境循環型社会*の形成に向けて、自然環境の保全・共生やごみ処理などの環境問題への積極的な取り組みを進め、「安全・安心に暮らせ自然豊かなまち」づくりを目指します。

【基本目標】 子育て・教育・交流の充実したまち（教育・文化）

こころ豊かな人づくりに向け、各世代の教育の充実や教育機関相互の連携を強めるとともに、家庭・学校・地域の連携をより緊密にし、子どもから高齢者すべての人が自己実現できる環境づくりに取り組みます。

また、数多くの歴史的・文化的資源を活用した地域文化の振興やスポーツ・レクリエーションの推進に取り組み、「子育て・教育・交流の充実したまち」づくりを目指します。

【基本目標】 地域の特色を活かしたにぎわいのあるまち（産業・地域活力）

時代変化等の新たなニーズに対応しつつ、立地条件や広域交通条件、豊富な労働力を有するなど本町の特性を活かしながら、既存産業の育成・振興に取り組みます。

また、地域資源を活かした観光・交流の振興を進めます。さらに本町の各地域の特性を活かした魅力ある地域振興に努め、「地域の特色を活かしたにぎわいのあるまち」づくりを目指します。

【基本目標】 計画推進の体制づくり（協働・行政改革）

まちづくりの将来像の実現に向け、住民参画による連携の精神を基本としつつ、住民や団体・NPO*などのコミュニティの育成や、企業などとの連携・交流環境づくりを進めます。

また、行政情報をはじめとした情報公開などを推進しつつ、地方分権*の流れを見通しながら、行政改革に取り組み、中長期的な視点に立って効率的な行財政運営に努めます。

3. 基本目標ごとの施策大綱とまちづくり指標

6つのまちづくりの基本目標を実現するため、それぞれの基本目標の施策大綱ごとに「まちづくり指標」を掲げ、5年後の本計画の見直しの際に、基本目標の達成度を測ることとします。

「まちづくり指標」は、総合計画を策定するにあたって実施した「宇多津町住民アンケート調査」における満足度の数値を採用しています。

アンケート調査における満足度は、6つのまちづくり分野、全35項目について、右の5段階で回答いただき、「満足」及び「どちらかといえば満足」の回答割合(%)を現状の満足度としています。








なお、全35項目全体での満足度の平均は、30.8%となっています。

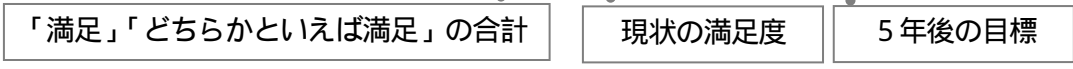
【満足度調査：回答5段階】

- 満足
- どちらかといえば満足
- どちらともいえない
- どちらかといえば不満
- 不満

6つのまちづくりの基本目標の分野における満足度の平均値（現状の満足度）と5年後の目標値を以下に示すとともに、次頁以降に6つのまちづくりごとの施策大綱とまちづくり指標を示します。

さらに詳細な指標については、実施計画（事務事業評価）において設定していきます。

まちづくりの基本目標（満足度）	平成25年実績	平成30年目標	備考
基本目標：健康・福祉	32.1%	 37.0%	現状より5%程度アップ
基本目標：生活基盤	40.8%	 45.0%	現状より5%程度アップ
基本目標：防災・環境	41.4%	 46.0%	現状より5%程度アップ
基本目標：教育・文化	23.1%	 33.0%	現状より10%程度アップ
基本目標：産業・地域活力	25.8%	 35.0%	現状より10%程度アップ
基本目標：協働・行政改革	27.1%	 37.0%	現状より10%程度アップ
基本目標全体	30.8%	 40.0%	現状より10%程度アップ



【基本目標】 少子・高齢化に対応した健康・福祉のまち

すべての住民が健康なまちづくり



本格的な高齢化社会において、できる限り健康で生きがいを持って暮らしたいという住民意識の高揚とともに、生活習慣（生活様式や食生活など）の改善や健康に有益な行動変容などへの関心が高くなってきています。また、「自立して健康に暮らす」という生活の質を捉えた指標として健康寿命*が重要となっています。

今後は、「心身ともに自立した健康づくり」という新たな視点に立ち、保健センターを拠点に多様な健康づくり活動を支援する環境整備の推進を図ります。

また、医療、福祉、介護、地域等の連携により、地域に密着した切れ目のない支援の充実を目指します。

健康づくり体制の充実

医療体制の充実

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
健康づくり・医療体制の充実	45.4%	 50.0%	現状より5%程度アップ
保険事業の充実	34.6%	 39.0%	現状より5%程度アップ

心で支える福祉のまちづくり

少子高齢化の進行に伴い、すべての人々が生涯を通じて安心して暮らせるまちづくりが求められています。特に、地域コミュニティ*の弱体化が指摘される中、東日本大震災からの教訓を踏まえた「地域の結びつき」の大切さが見直されています。

そのため、社会福祉協議会等との連携のもと、地域の結びつきを強め、町全体の地域力を高める取り組みを推進することにより、高齢者や児童、障害者など、対象者に応じた福祉施策の充実を図ります。

地域福祉の充実

高齢者福祉の充実





児童福祉の充実

ひとり親福祉の充実

障害者福祉の充実

要介護者福祉の充実

社会保障の充実

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
地域福祉の充実	32.1%	 37.0%	現状より5%程度アップ
高齢者福祉の充実	25.2%	 35.0%	現状より10%程度アップ
子育て支援の充実	35.1%	 40.0%	現状より5%程度アップ
障害者支援の充実	20.0%	 30.0%	現状より10%程度アップ

【基本目標】だれもが快適に安心して暮らせる生活基盤の整ったまち

住みよい生活基盤づくり

価値観の多様化や社会情勢が目まぐるしく変化する時代において、本町が目指す「持続可能な自立したまち」の実現に向けた市街地機能の更新・拡充が求められています。





今後は、これまで蓄積されてきた都市基盤や歴史・文化等を活かした新たな魅力の創出、市街地の形成促進、住環境や交通機能の改善等を推進し、生活基盤の更なる充実を目指します。

また、急速な少子化・高齢化の進展や多発する自然災害に対応可能な都市基盤の整備を適正かつ計画的に推進します。

市街地形成

住環境の充実

道路機能の充実

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
土地の有効活用	18.9%	 29.0%	現状より10%程度アップ
市街地の整備	35.2%	 40.0%	現状より5%程度アップ
住宅施策の推進	25.6%	 35.0%	現状より10%程度アップ
道路・交通網の充実	39.5%	 44.0%	現状より5%程度アップ

住みよい快適環境づくり

生活環境は、快適な生活を営むうえで、最も根幹的な要素です。




都市近郊でありながら、海・河川、山などの自然に恵まれたこのまちで安全で快適な暮らしを実感できるよう、河川・海岸等の保全・活用や上下水道・公園・緑地の整備により、だれもが住みやすい水と緑の環境の形成を目指します。

上水道の充実

下水道の充実

河川・海岸の整備

公園、緑地の充実

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
上水道の充実	56.5%	 61.0%	現状より5%程度アップ
下水道の充実	51.9%	 56.0%	現状より5%程度アップ
公園・緑地の整備	58.1%	 63.0%	現状より5%程度アップ



【基本目標】豊かな自然の中で安全・安心に暮らせるまち

安全で安心なまちづくり

安全で安心して暮らせることは、住民すべての願いであり、住民生活の前提となります。特に東日本大震災以降、人々の安全・安心に対するニーズは高まっています。

このような中、消防・防災の充実、交通安全・防犯対策の推進等により、住民が安全・安心して暮らせる環境づくりを目指します。また、自分自身の身を守るための防災教育の充実を図ります。

消防、防災の充実 交通安全、防犯対策の推進



まちづくり指標（満足度）	平成25年実績	平成30年目標	備考
消防・防災の充実	34.1%	 39.0%	現状より5%程度アップ
防犯・交通安全の充実	27.4%	 37.0%	現状より10%程度アップ

自然と共生する生活環境づくり

地球温暖化等による自然環境に変化を感じるようになり、環境保全に対する住民意識の高まりがみられます。このような中、人と自然の共存や生物の多様性の尊重を基本とし、動植物と共生して暮らせる社会や、豊かな自然環境に囲まれた生活空間の形成を目指します。

また、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用、適正処理に努め、低炭素社会および循環型社会*の形成を目指します。

環境の保全 ごみ資源循環型社会*の実現 し尿処理の充実
火葬場、墓地の充実

まちづくり指標（満足度）	平成25年実績	平成30年目標	備考
環境保全の推進	48.8%	 53.0%	現状より5%程度アップ
廃棄物処理等環境衛生	55.4%	 60.0%	現状より5%程度アップ



【基本目標】子育て・教育・交流の充実したまち

地域で子どもを育てる体制づくり

本町の将来を担う、子どもたちの健全育成を目指し家庭と地域、学校がそれぞれの役割に努めるとともに、互いに連携を図りながら、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを目指します。また、保育所、幼稚園、小学校、中学校が連携し、一貫した教育の推進を図ります。

さらに、学校支援ボランティア、PTA、民生委員、児童委員、自治会、老人会等が連携し、自らの知識や経験を活かす場が広がり、子どもへの教育がより充実され、地域の教育力の向上を図ります。

幼児教育の充実 学校教育の充実 地域と学校の連携 青少年教育の推進





まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
学校教育の充実の満足度	36.7%	 41.0%	現状より5%程度アップ
青少年の健全育成の満足度	19.8%	 29.0%	現状より10%程度アップ

多様な交流機会の創出

生活形態・ライフスタイルの変化などに伴い、住民の生涯を通じた学習や文化的な活動などに対する意欲が高まり、また、その内容も多様化しています。

今後も、住民の自主的・自発的な活動の支援に向け、地域や関係機関との協働*のもと、生涯学習社会の形成、スポーツ・レクリエーション活動の推進、文化・芸術の振興、交流の振興など、多様なニーズに応えるまちづくりや支援体制の構築を目指します。

生涯学習社会の充実・活用 スポーツ・レクリエーション活動の推進
文化・芸術の振興 交流の振興



まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
生涯学習社会	26.0%	 36.0%	現状より10%程度アップ
スポーツの振興	24.0%	 34.0%	現状より10%程度アップ
歴史・文化の継承と創造	31.7%	 36.0%	現状より5%程度アップ
国内外との交流活動促進	13.3%	 23.0%	現状より10%程度アップ

人権尊重のまちづくり

すべての住民が活躍・協働*する豊かな地域社会の形成のためには、性別や人種などにかかわらず、その個性と能力を互いに認め合い、思いやる必要があります。

そのため、人権教育の推進、男女共同参画社会*の形成に努め、すべての住民が対等で、それぞれの個性・能力を十分に発揮することができる住民協働*のまちづくりを目指します。

人権教育の推進 男女共同参画社会*の形成

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
人権の尊重	18.3%	 30.0%	現状より10%程度アップ
男女共同参画の推進	17.0%	 30.0%	現状より10%程度アップ

【基本目標】地域の特色を活かしたにぎわいのあるまち

産業創造のまちづくり

少子高齢化の進行、消費者の価値観やライフスタイルの多様化、情報通信技術社会の進展などにより、地域産業の構造は大きな転換期を迎えています。







本町では、これまで高速交通網等による立地条件を活かし、新宇多津都市を中心に商工業等の企業誘致を積極的に進め、大きく発展してきました。しかしながら、厳しい経済情勢が続く中、大規模な企業の進出は期待し難いとともに、近隣地域における大型商業施設の立地等により、にぎわいを創造してきた産業活力の低下が懸念される状況にあります。

今後は、既存企業の体質強化に向けた支援に取り組むとともに、これまで培ってきた産業基盤と地域資源を活かしつつ、産業や観光の振興を図っていきます。

活力ある商工業の振興

地域資源を活かした観光振興

地域の特色を活かした農水産業の振興

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
商業の振興	52.6%	 57.0%	現状より5%程度アップ
工業の振興	13.6%	 23.0%	現状より10%程度アップ
農林水産業の振興	13.3%	 23.0%	現状より10%程度アップ
観光の振興	28.9%	 38.0%	現状より10%程度アップ
雇用対策・勤労者福祉の充実	13.6%	 23.0%	現状より10%程度アップ
消費者対策の充実	16.5%	 27.0%	現状より10%程度アップ

活力ある地域の形成




本町は、コンパクトな町域の中に、地形、自然環境、産業構造、地域文化など、それぞれの特徴ある地域が形成されています。

このような特徴を踏まえ、地域の特性を活かした魅力ある地域振興に努めるとともに、多様な交流を通じ、個性と活力に満ちた地域社会の実現を目指します。

新宇多津都市の活力ある市街地づくり

既成市街地の趣あるまちづくり

南部地域の資源を活かした環境づくり

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
市街地の整備	35.2%	 40.0%	現状より5%程度アップ
住宅施策	25.6%	 35.0%	現状より10%程度アップ
土地の有効利用	18.9%	 28.0%	現状より10%程度アップ

【基本目標】計画推進の体制づくり



住民参画のまちづくり

まちづくりの主役は住民です。豊かなまちづくりのためには住民参画が不可欠であり、住民と行政が連携を図り、それぞれの役割分担を明確にしていくことが重要です。

住民と行政が、共通の認識を持ってまちづくりに取り組めるよう、新宇多津都市と既成市街地などそれぞれの地域の実情に応じた双方向の情報共有や住民の自主的活動の支援に努め、協働*のまちづくりを目指します。

コミュニティの育成

協働*のまちづくり

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
コミュニティの育成	34.4%	 39.0%	現状より5%程度アップ
協働*のまちづくりの推進	29.4%	 39.0%	現状より10%程度アップ



効率的な行財政運営の推進

地方分権*の進展や社会変化に伴う価値観・生活様式の多様化等を背景に、行政需要は高度化・複雑化しています。一方、長引く景気低迷や地方交付税*の減額等により、歳入の伸びが期待できない中、少子高齢化等により、歳出は今後増加していくと考えられます。

そのため、行政事務の効率化や周辺市町村との更なる連携を通して、合理的な行政運営を推進していくとともに、財源の確保と住民ニーズに基づいた財源運用の最適化を徹底し、簡素で効率的ながらも暮らしやすいまちを目指した行財政改革を押し進めていきます。

合理的な行政運営の推進

効率的な財政運営の推進

まちづくり指標（満足度）	平成 25 年実績	平成 30 年目標	備考
情報化の推進	22.3%	 32.0%	現状より10%程度アップ
自立した自治体経営の推進	22.2%	 32.0%	現状より10%程度アップ

4. 施策展開の視点

将来像の実現に向けた6つの基本目標を柱とする『施策の大綱』の施策の展開において、特に、次の2つの視点を重視して、住民と行政の協働*により取り組んでいきます。

(1) 住民の意識改革による地域力の強化

住民一人ひとりの健康づくり、高齢者や子育て支援、安全・安心なまちづくりなど、各種の取り組みを通じて、住民の意識改革による地域力の強化を図ります。

(地域力の強化に向けた取り組み)

各種まちづくり活動を通じた住民参画の意識改革

(健康づくり活動、見守り活動、あいさつ運動などの既存活動の拡大展開)

住民会議など住民参画機会の創出・継続

住民と行政の双方向の情報発信の強化・充実

(2) 各地域の特性を活かしたまちづくり

新宇多津都市、既成市街地、南部地域などの各地域の現状に応じて、地域の特性を活かす視点、地域住民との協働*により、魅力と活力あふれる地域づくりに取り組んでいきます。

(新宇多津都市の特性を活かしたまちづくり)

J R 宇多津駅周辺の機能強化

にぎわいの軸づくり

臨海公園周辺の魅力づくり

良好で安全な都市型空間づくり

(既成市街地の特性を活かしたまちづくり)

高齢者が暮らしやすいまちづくり

古街の良さを活かした魅力づくり

空き家の有効活用の推進

(南部地域の特性を活かしたまちづくり)

計画的な土地利用の誘導

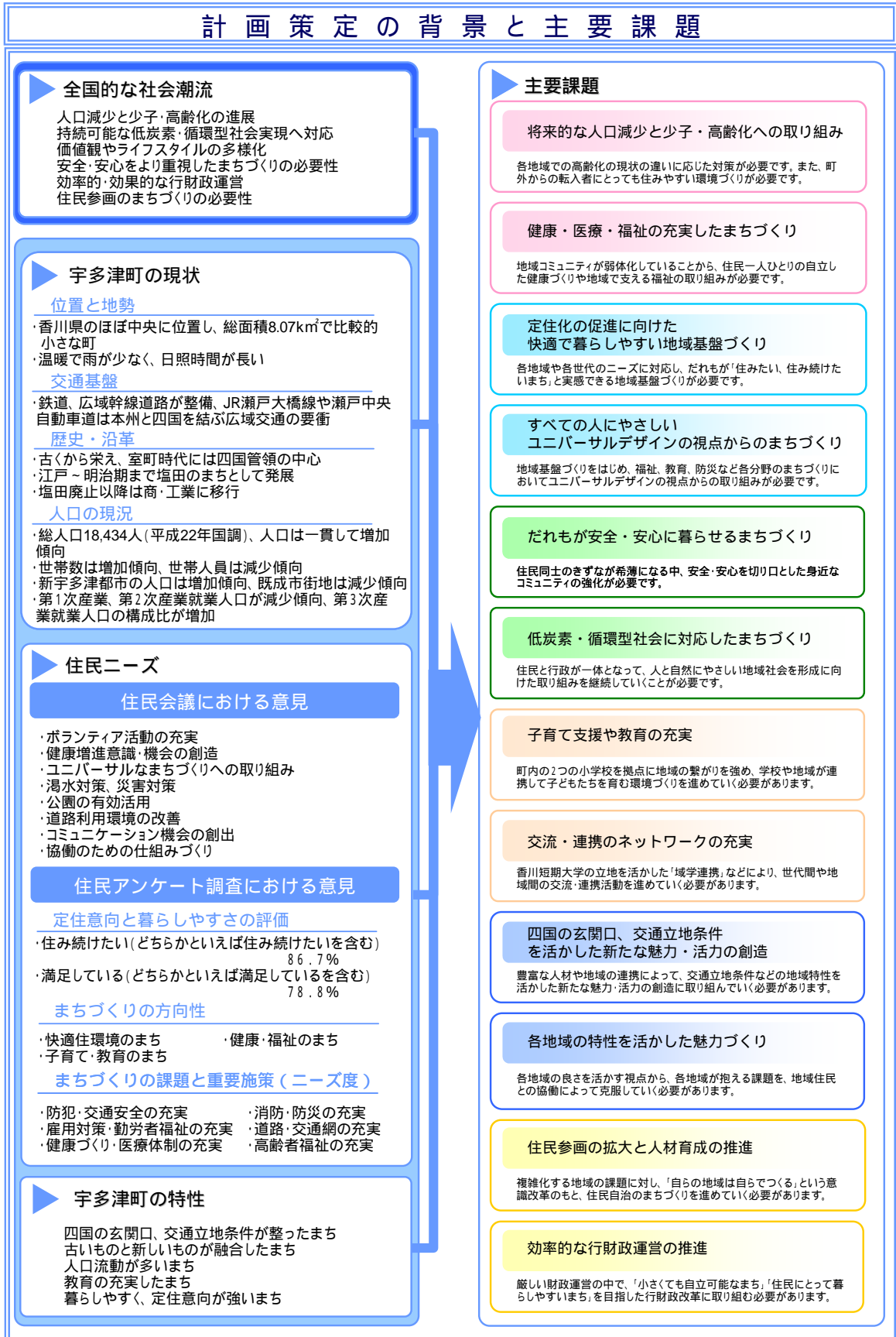
安全で良好な田園環境づくり

(優良農地の保全、住宅地の確保)

都市基盤施設の整備・充実

5. 施策の体系

計画策定の背景と主要課題から、基本構想、基本計画の展開に向けた施策の体系を示します。



基本構想

▶ 将来像と基本理念

まちづくりの将来像

元気創造！これからも自立する宇多津

基本理念

住民の自立と参画による
繋がりが豊かな**地域コミュニティ**のあるまち

住民一人ひとりが**生涯健康**で
いきいきと活躍できるまち

町全体と**各地域の特性**を活かした
個性と活力のあふれるまち

**だれもが安心して暮らせ、
明日を担う人材**が育つまち

人口の目標

20,000人

全国的な人口減少が加速する中、将来像の実現に向けた取り組みを総合的に評価する基本指標として、推測される将来人口の維持・増加させることを目標とします。

▶ 土地利用の基本方針

▶ 施策展開の視点

住民の意識改革による地域力の強化
・住民一人ひとりの健康づくり、高齢者や子育て支援、安全・安心なまちづくりなど、各種の取り組みを通じて、住民の意識改革による地域力の強化を図ります。

各地域の特性を活かしたまちづくり
・新宇多津都市、既成市街地、南部地域などの各地域の現状に応じて、地域の特性を活かす視点、地域住民との協働により、魅力と活力あふれる地域づくりに取り組んでいきます。

基本計画

▶ 基本目標

基本目標 少子・高齢化に対応した健康・福祉のまち (健康・福祉)

施策の大綱	すべての住民が健康なまちづくり	▶ 1-1 健康づくり体制の充実 1-2 医療体制の充実
	心で支える福祉のまちづくり	▶ 2-1 地域福祉の充実 2-2 高齢者福祉の充実 2-3 児童福祉の充実 2-4 ひとり親福祉の充実 2-5 障害者福祉の充実 2-6 要介護者福祉の充実 2-7 社会保障の充実

基本目標 だれもが快適に安心して暮らせる生活基盤の整ったまち (生活基盤)

施策の大綱	住みよい生活基盤づくり	▶ 1-1 市街地形成 1-2 住環境の充実 1-3 道路機能の充実	
		住みよい快適環境づくり	▶ 2-1 上水道の充実 2-2 下水道の充実 2-3 河川・海岸の整備 2-4 公園・緑地の充実

基本目標 豊かな自然の中で安全・安心に暮らせるまち (防災・環境)

施策の大綱	安全で安心なまちづくり	▶ 1-1 消防、防災の充実 1-2 交通安全、防犯対策の推進
		自然と共生する生活環境づくり

基本目標 子育て・教育・交流の充実したまち (教育・文化)

施策の大綱	地域で子どもを育てる体制づくり	▶ 1-1 幼児教育の充実 1-2 学校教育の充実 1-3 地域と学校の連携 1-4 青少年教育の推進		
		多様な交流機会の創出	▶ 2-1 生涯学習社会の充実・活用 2-2 スポーツ・レク活動の推進 2-3 文化・芸術の振興 2-4 交流の振興	
			人権尊重のまちづくり	▶ 3-1 人権教育の推進 3-2 男女共同参画社会の形成

基本目標 地域の特色を活かしたにぎわいのあるまち (産業・地域活力)

施策の大綱	産業創造のまちづくり	▶ 1-1 活力ある商工業の振興 1-2 地域資源を活かした観光振興 1-3 地域の特色を活かした農水産業の振興	
		活力ある地域の形成	▶ 2-1 新宇多津都市の活力ある市街地づくり 2-2 既成市街地の趣あるまちづくり 2-3 南部地域の資源を生かした環境づくり

基本目標 計画推進の体制づくり (協働・行政改革)

施策の大綱	住民参画のまちづくり	▶ 1-1 コミュニティの育成 1-2 協働のまちづくり
		効率的な行財政運営の推進